

2017. 3. 6

ナイス株式会社

～地元の「南三陸杉」を用いた木造建築による商店街～ 南三陸町志津川「さんさん商店街」竣工

建築家 隈 研吾氏による設計で復興のシンボルに

《ニュースポイント》

ナイス株式会社(社長:平田 恒一郎、本社:神奈川県横浜市)は、宮城県南三陸町志津川地区において建設に携わっていた「さんさん商店街」の移転新築工事(事業主:株式会社南三陸まちづくり未来、工事名称:南三里町志津川地区観光交流拠点新築工事)が1月23日に竣工し、同施設は3月3日に常設商店街としてオープンを迎えましたのでお知らせいたします。

この工事は、宮城県南三陸町の志津川地区で復興を担う地元の事業者が軒を連ねる仮設商店街「さんさん商店街」が8.3メートル嵩上げされた高台造成地に本設商店街として移転新築されたもので、世界的な建築家である隈研吾氏の設

計のもと、約2万㎡の敷地に木造の店舗施設7棟(延べ床面積:3085.70㎡)からなる施設です。

当社は、地元建設会社である志津川建設株式会社と山庄建設株式会社とで組成した「ナイス・志津川・山庄 特定建設工事共同企業体」の代表として参画したほか、木質化企画や材料調達、構造躯体材のプレカット加工、施工などに携わりました。

弊社は引き続き、国内最大規模となる木材流通プラットフォームを生かし、地域に根差した建築物の木造化や木質化の取り組みを通じて被災地の復興にお役立ちするとともに、国産材の利用拡大と地域経済の活性化に貢献してまいります。



地元「南三陸杉」が多彩に用いられた木造店舗施設

工事概要

工 事 名	南三陸町志津川地区観光交流拠点新築工事
所 在	宮城県本吉郡南三陸町志津川字五日町 51 番地
着 工 日	2016 年 7 月 6 日
竣 工 日	2017 年 1 月 23 日
事 業 主	株式会社南三陸まちづくり未来
設 計 監 理	隈研吾建築都市設計事務所
施 工	ナイス・志津川・山庄 特定建設共同企業体 (地元建設会社である志津川建設株式会社と山庄建設株式会社 と共に組成した特定建設共同企業体でナイス株式会社が代表となります)
構 造	木造・平屋建て
規 模	7 棟・3085.70 ㎡ (926.63 坪)



建物の正面に使われる縦格子ルーバー（南三陸杉）



下屋部分に使われているポーチ柱と外壁（南三陸杉）



多目的スペース「さんさんコート」



柱や梁が現しとなる店舗内観

《建物について》

この施設は、弊社グループオリジナルの金物接合による木造軸組工法であるパワービルド工法が用いられました。外壁及び縦格子ルーバー、下屋部分のポーチ柱には、地元の南三陸スギを54.45㎡用いたほか、羽柄材には国産のスギ材を74.88㎡使用しました。

建物は嵩上げされた高台から南三陸の美しい海や山が見えるように配棟されており、各棟は構造躯体や内装、外装においてふんだんに木質感が醸し出されています。商品を陳列しやすいよう大きく跳ね出したデザインの軒下も特徴となっています。



オープン前に行われたテープカット



大勢でにぎわったオープニングイベント



木質感あふれる店舗内観

《参考①》オープニングセレモニーについて

「さんさん商店街」が常設商店街としてオープンした3月3日には、株式会社まちづくり未来の主催によりオープニングセレモニーが盛大に開催されました。

復興庁の橋慶一郎復興副大臣、佐藤仁南三陸町長ほか多くの来賓が参加され、設計を手掛けた隈研吾氏よりプロジェクト概要が説明されました。

オープンを記念してテープカットが行われ、建設工事共同企業体を代表して、弊社から専務取締役の平田潤一郎が参加しました。

《参考②》南三陸町志津川「さんさん商店街」

「さんさん商店街」は、東日本大震災の翌年となる2012年に仮設商店街として誕生しました。2014年には経済産業省選出の「がんばる商店街30選」に仮設商店街として唯一選ばれるなど、復興のシンボルかつ周遊型の商店街として高い注目を集め、連日多くの観光客で賑わいを見せました。

常設としてオープンする新「さんさん商店街」は、仮設からの移転が23店舗、新規が5店舗の合計28店舗が出店します。

《参考③》「南三陸まちなか再生計画」について

「南三陸まちなか再生計画」は、南三陸町の志津川地区中心部の約11.7ヘクタールと、歌津地区中心部の約1.2ヘクタールの区域において、住宅地や公共施設を安全性の高い場所に配置し、商業施設や交流施設等と有機的な連携を図り、安全・安心かつにぎわいのある市街地形成を目指すもので「まちなか」の再生に向けて観光客需要を喚起していくことを目的としています。

住宅地と施設を結ぶバス路線導入を検討するほか、バス高速輸送システムBRT（バス・ラピッド・トランジット）も停車するバスターミナルや駐車場、各施設を回遊する歩行動線、道の駅も整備され、志津川地区は建築家の隈研吾氏がグランドデザインを手掛けました。また、まちなか再生区域と隣接する八幡川や復興祈念公園をつなぐため、上山八幡宮から復興祈念公園へと向かう道を慰霊のための象徴的な空間とし、復興の象徴となる中橋（人道橋）が整備されます。